令和7年度小学校教科担任制実施報告書（高学年型）

学校名
府中町立府中中央小学校

1　学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	4	5	5	4	4	5	27	7	34

2　加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1)　第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数（週）	授業時数（週）	兼務校での実施
理科	5	4	3	12	
理科	6	5	3	15	
			授業時数　計	27 (a)	

(2)　その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数（週）	授業時数（週）	兼務校での実施
				0	
			授業時数　計	0 (b)	
			授業時数　合計	27 (a)＋(b)	

3　教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1 組（担任： A ）	A	専科	A	A	推進	専科	専科	専科	A	A	A	A	A
6年 2 組（担任： B ）	C	専科	B	B	推進	専科	専科	専科	B	C	B	B	B
6年 3 組（担任： C ）	C	専科	C	B	推進	専科	C	専科	C	C	C	C	C
6年 4 組（担任： D ）	D	専科	D	E	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
6年 5 組（担任： E ）	D	専科	E	E	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1 組（担任： F ）	F	F	F	G	推進	専科	F	専科	F	F	F	F	F
5年 2 組（担任： G ）	F	F	G	G	推進	専科	G	専科	G	G	G	G	G
5年 3 組（担任： H ）	I	I	H	H	推進	専科	H	専科	H	H	H	H	H
5年 4 組（担任： I ）	I	I	I	H	推進	専科	I	専科	I	I	I	I	I

4　高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数（人）	担任	担任する学級以外の授業時数（週当たり）				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計（c）	(d)	(c)+(d)
5-1	33	F	5-2	国語	4	5	17.9	22.9
			5-2	書写	1			
5-2	33	G	5-1	算数	5	5	17.9	22.9
5-3	34	H	5-4	算数	5	5	17.9	22.9
5-4	35	I	5-3	国語	4	5	17.9	22.9
			5-3	書写	1			
6-1	29	A				0	20.6	20.6
6-2	28	B	6-3	算数	5	5	14.6	19.6
6-3	29	C	6-2	国語	4	6	17	23
			6-2	外国語	2			
6-4	29	D	6-5	国語	4	4	17	21
6-5	29	E	6-4	算数	5	5	18	23

５（①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他）

〈効果のあった取組〉		〈成果〉
① 日々の教材研究・見取りや評価についての交流が当たり前になり、研究部や教務部の研修も生かしながら、授業改善に取り組むことができた。	▶	① 標準学力調査の結果、以下の通り全国平均を上回り、向上が見られた。 国語　５年＋ 8.3　６年＋3.5 算数　５年＋10.3 理科　５年＋13.3　６年＋5.8
② 要配慮児童や個々の児童の言動の変化を交流し、生徒指導主事や通級担当、スクールカウンセラー等との連携も含めて、児童理解につながっている。		② 「いろいろな先生と話ができる」と回答する（校内アンケート）児童が増えた。 ６月48.4%→１月91.8%
③ 中学校区での研修や毎月行われる小中連携の取組、また今年度は県小理の取組をふまえ、小中の接続について考えることができた。		③ 「中学校への不安がなくなった」と回答する（校内アンケート）児童が増えた。 ６月53.1%→１月89.4% 県小理後「他者（教職員）と学び合う楽しさを味わった」と回答する教職員が97%だった。
④ 指導教科数が減り、役割分担が進んでいる。		④ 業務改善アンケート「子供と向き合う時間が確保できる」と回答する教職員が87.5%（平均＋3.7）だった。

〈課題〉		〈対策〉
① ② ③ 不登校傾向・教室に入りにくい児童・個別に支援が必要な児童への継続した学習支援が必要。 また、全学年を通して算数への苦手意識の高さが課題である。	▶	① ② ③ 生徒指導主事・個別ルーム担当・通級担当・養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの細やかな連携を行った。 ・個別ルームでの指導。 ・理科・家庭科・音楽等、個別に実習 ・ケース会議やスクールカウンセラー連絡会等での情報共有 ・校長室での支援や保護者との面談 ・日々の児童の記録を毎日回覧 算数科では特に１～３年で押さえるべき力について夏季研修で話し合い、学力調査に向けて取り組んだ。今後も継続していきたい。
④ 若い教員が増えている中での指導の充実。		④ ・日々の悩みを出せる学年会や学年団づくり。複数年かけて教師としての力をつける意識の醸成。 ・若い教員のニーズに応じた自己啓発研修実施。 ・具体的な教材研究。参観日や研究授業をよい機会としてとらえ、必要感の高い教材研究に努めた。